

JCI プレキャストコンクリート製品の性能設計と利用研究委員会(JCI-TC-093A)

第2回全体委員会 議事録(案)

開催日：2009年9月29日(火) 14:00～17:00

場 所：JCI 会議室

出席者(敬称略)：久田 真，中田善久，川上 洵，石川雅美，小野里憲一，松山哲也，
伊藤 始，星田典行，松岡 智，北辻政文，入江正明 下谷裕司，新村 亮，
西本好克，金子 修，田所雄治，中山壮一郎，梅村靖弘，香取慶一，
長田浩治，岡本 大

記録者：岡本 大

資 料：全2-0 第2回全体委員会 議事次第

全2-1 第1回全体会議議事録(案)

全2-2 WG1(製品設計) 第1回WG議事録(案)

全2-3 WG1 第1回議事録(案)

全2-4 シンポジウムから学んだこと～PCaの普及に向けて～

全2-5 鉄道構造物等設計標準(コンクリート構造物)(案)の要旨

全2-6 週刊ブロック通信 平成21年9月28日版 記事

全2-7 委員会名簿

議 事

1. 新任委員の紹介

新任の委員として長田委員(株フローリック)に参加していただく旨が了承され、自己紹介が行なわれた。

今後は、WG1に参加していただくこととなった。

2. 第1回全体会議議事録(案)の確認

- ・資料：全2-1議事録(案)について伊藤委員より説明があり、内容について了承された。
- ・議事録の5.(2)PCa製品の補修・補強事例に関連して、PCa部材の交換のタイミングに関する議論がなされた。また、PCa製品の補修・補強事例に関する情報提供の依頼が久田委員長よりあった。

3. 活動報告について

(1) WG1(製品設計WG)

資料：全2-2に基づいて川上幹事より説明があり、主に以下のような議論がなされた。

- ・PCa製品といっても非常に多くの種類が存在する。そのため、各々の製品(品目)ごとに設計法をまとめる必要がある。(議事録：(3)-12)に記述)
- ・限界状態設計法を採用するに当たっては、ひび割れ幅に対する検討方法がポイントになると考えられる。(議事録：(3)-9)に記述)
- ・その他、建築分野におけるPCa製品について等

(2) WG2 (構造物評価 WG)

西本委員、中根委員も WG2 に参加していただきたい旨の提案があり、了承された。

資料：全 2-3 について、石川幹事より説明があり、主に以下のような議論がなされた。

- ・土木学会 3 種委員会 (314 委員会) における PCa 鉄道高架橋に関する成果について、内容の確認が必要である。
- ・PCa の構造上の有利点について NEXCO の資料をベースにして整理する必要がある。
- ・前述の 2 点については、次回の WG において議論する予定である。
- ・その他、建築分野の用語の定義 (継手と仕口の違い) について等

(3) 全体について

久田委員長より全体の枠組みに関する議論が必要であるとの意見があり、まず、幹事会で議論することとなった。

4. 話題提供

(1) シンポジウムに関連した事項

資料：全 2-4 について久田委員長より説明があり、主に以下のような意見があった。

- ・建築では、現場打ちと PCa で、どちらが安いということが重要視される。
- ・本委員会では、サイト PCa については対象外とするべきである。
- ・WG1 では、PCa 部材でなければできないような構造物 (製品) について、性能照査 (性能保証) できるようなガイドラインを作成する。建築分野では、JASS10 がこれに当たる。そのため、JASS10 をベースに要求される性能を整理し、性能評価へのブレークダウンを図ることが必要である。
- ・WG2 では、PCa 構造を採用する場合のガイドラインを作成するのがよい。例えば、接合部等について、このガイドラインに従えば、現場打ち構造と同等の性能が得られることがわかるようなガイドラインの作成が重要である。
- ・前述のガイドラインを作成することによって、PCa 構造を採用することについて安心感を与えられるのではないか。+

(2) 鉄道構造物基準 (コンクリート構造物) に関して

資料：全 2-5 についてパワーポイントを用いて岡本より説明し、主に以下のような質疑があった。

- ・ひび割れ幅算定式における、JSCE コンクリート標準示方書と鉄道設計標準の表記の相違について

5. 今後の活動方針

- ・⇒「3.活動報告について」参照のこと

6. 次回開催日程について

次回全体会議は、平成 22 年 1 月 20 日 (水) 14:00~17:00, JCI 会議室にて開催する予定となった。

以上